

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

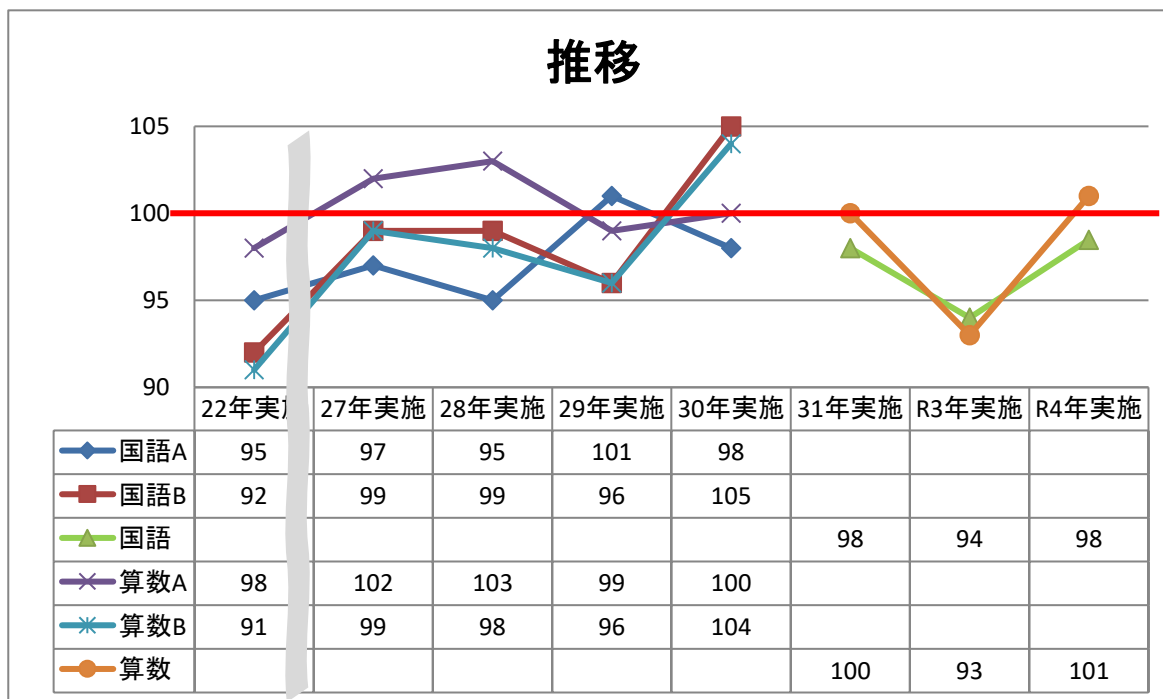
令和4年度の全国調査の文科省標準化得点：国語・算数で102以上

3.指標に向けての取組

- 国語科においては、読解力を育む継続的な読み取りの時間を設定
- 算数科においては、単元テストの結果を踏まえた複数体制での習熟度別授業と総合的診断テストの実施
- 家庭学習時間「10分×学年数+10分」の徹底と学習習慣の定着
- 授業アンケートや単元テストの通過率などのデータをもとにした授業改善

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	98	101
嘉麻市	98	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

□国語科・算数科ともに短期指数を達成することはできなかったが、算数科においては、全国の標準化得点を上回ることができた。

□国語科においては、「読むこと」に課題があり、特に記述式の問題で無回答率が多かった。授業後の振り返りで書く活動を位置付けていたものの、全単元、毎時間の徹底が十分でなかったと考える。

□算数科は、「未来への一歩」を活用した基礎基本の定着を図り、さらに、学力低位層の児童に対しては、隙間時間を活用し、専科も関わりながら、繰り返し取り組んできたことが有効であったと考える。

6.各学校における今後の取組

□読解力向上の取組を継続して行う。しかし、取り組み方法を変更し、活用力を問うような条件付記述式問題に特化し、系統立てた取組を短期的・集中的に行う。具体的に時間を決めて問題を解かせ、専科が解説を行う。《新規・継続》

□金曜日の朝の学習時間に全校一斉漢字テストを行う。具体的には、前学年の漢字を隔週で、読みテストと書きテストに分けて行う。誤答の多い児童については、給食準備時間などの隙間時間に、専科が中心となり支援を行う。《新規》

□算数科においては、単元テストの結果を踏まえた補充学習や重要単元での複数体制による算数指導を実施する。《継続》

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。